

英語科 学習指導案

日 時 平成20年11月10日(月) 6校時
学 級 3年2組(男子14名 女子17名 計31名)
場 所 3年2組教室
授業者 山蔭 美恵子

1 単元名 Unit 6 20th Century Greats (New Horizon English Course Book 3 東京書籍)

2 単元について

(1) 教材観

本単元は、20世紀の偉人をテーマとして取り上げている。興味を持った偉人について人物事典調べ、得た情報をレポートにまとめるという流れを通して、「読むこと」の指導内容「(ウ)物語や説明文などのあらすじや大切な部分を読み取ること」及び「書くこと」の指導内容「(イ)聞いたり読んだりしたことについてメモをとったり、感想や意見などを書いたりすること」について指導することをねらいとしている。また、後に続くListening Plus 6では、「20世紀のスター」としてジョン・レノンについてまとめたレポートの発表を聞き、要点をメモする活動を通して「聞くこと」の指導内容「(イ)自然な口調で話されたり読まれたりする英語を聞いて、具体的な内容や大切な部分を読み取ること」に重点を置いている。

Starting Outでは、偉人についてレポートにまとめる課題が指示される表現の中で接触節が扱われ、Dialogでは人物選びをしている過程の中で、人を先行詞とする主格の関係代名詞が扱われている。また、Reading for Communicationでは、レイチェル・カーソンについての資料を読み、まとめる中で、物を先行詞とした関係代名詞が扱われている。

後置修飾の表現は、1・2学年では前置詞句によるもの、3学年では1学期に不定詞によるもの、2学期は前単元で現在分詞と過去分詞によるものを扱った。本単元は、結論を先に述べ、後から修飾する英語の特性を押さえた後置修飾のまとめとして指導できる単元である。

(2) 生徒観

音読や会話練習などの声を出して取り組む学習に意欲的に取り組んでおり、発表も積極的に挙手して挑戦する生徒が多い。CRTの結果を見ても、「表現する」力は全国平均を上回る結果となっている。

しかし、基本単語や基本文、文法事項の定着のための課題学習など、「書く」活動に対する意欲は全国平均を下回る結果となっている。

言語学習の基盤となる「聞くこと」「話すこと」への関心は高く、意欲的に取り組める生徒が多いので、音読や口頭練習の中で基本単語や基本文の定着を図るための練習の場を多く設定し、十分に話せるようになってから「書く」活動へつなげることで、基本表現を十分に定着させ、活用することができると思える。

(3) 指導観

本単元における基礎・基本は、「関係代名詞を含む節を用いた後置修飾」の表現にとらえる。レイチェル・カーソンを選択し、レポートにまとめていく過程を追いながら、接触節、関係代名詞who、which、thatを用いた表現について理解を促したい。

また、レイチェル・カーソン以外の偉人についての資料を読み、伝えたい事項を選択してまとめる活動にも取り組ませたい。少人数でのグループ活動を組織し、生徒の興味・関心や個の力に応じて活躍できる場を設定する中で基礎・基本の定着を図り、成就感を持たせたい。

3 単元の目標

- (1) 「20世紀の偉人」について、興味・関心を持ち、意欲的に調べ、まとめようとする。
(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- (2) 接触節及び関係代名詞を用いて、人や物について説明、紹介することができる(表現の能力)
- (3) 接触節及び関係代名詞を用いた文の内容を理解できる。(理解の能力)
- (4) 接触節、関係代名詞の使い方を理解し、状況に応じて基本的な表現を使用できる。
(言語や文化に関する知識・理解)

4 単元の指導計画と評価規準

時	指導目標	評価規準			
		関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解
1	Starting Out ・接触節を含む文の形、意味の理解	・音読の練習を意欲的に行おうとしている			・接触節の文の形を理解できる
2	Dialog ・関係代名詞の Who を用いた文の形、意味の理解	対話文の練習を意欲的に行おうとしている		・関係代名詞 Who を用いた文の内容を理解できる	・関係代名詞 Who を用いた文の形を理解できる
3	R.F.C ・人物事典を読んで、内容の理解 ・レポートの概要をまとめる。 ・関係代名詞 Which を用いた文の意味の理解。 ・英語らしい音読	・英語らしい発音、抑揚に気をつけながら音読しようとしている。	・概要をまとめることができる。	・人物事典の内容を理解できる。	・関係代名詞 Which を用いた文の意味を理解している。
4	R.F.C ・伝記の情報を読んで、内容を理解 ・レポートの概要をまとめる。 ・関係代名詞 that (目的格) を用いた文の形、意味、用法を理解。	・英語らしい発音、抑揚に気をつけながら音読しようとしている。	・概要をまとめることができる。	・伝記の情報の内容を理解できる。	・関係代名詞 that を用いた文の形、意味、用法を理解できる
5	Listening Plus 6 ・レポートの発表を聞き、具体的な内容や大切な部分をメモ	・聞き取りに集中し、重要ポイントについて聞き取るようとしている。		・ジョンソンについて重要なポイントを聞き取ることができる。	
6 本時	R.F.C まとめ ・「20世紀の偉人」についてのレポート作成、発表	・「20世紀の偉人」について、英語でレポートにまとめようとしている。	・レポートを適切な表現を用いてまとめ、発表することができる。	・他の発表を聞いてポイントを聞き取ることができる。	

5 本時の計画

(1) 指導目標

- ア 「20 世紀の偉人」についてレポートにまとめることができる。 (書くこと 表現)
 イ 英語らしい発音、抑揚でレポートを発表できる。 (話すこと 表現)
 ウ 他のグループの発表を聞いて内容を理解できる。 (聞くこと 理解)
 エ レポート作成やレポートの発表に興味・関心を持ち、意欲的に取り組むことができる。
 (コミュニケーションへの関心・意欲・態度)

(2) 指導の構想

導入部では、Warm up として1分間の音読を行い、その後、ピクチャーカードを用いて前時までの復習となる後置修飾の文の口頭練習を行う。声を出す活動を行うことで英語を話しやすい雰囲気を作りたい。口頭練習の流れの中で教科書の本文を扱ったレイチェル・カーソンについてのレポートの内容に触れ、自分で選んだ偉人についてのレポート作成へとつなげたい。

展開部では、自分で選んだ偉人についてレポートにまとめさせる。活動形態としては3～5人程度のグループとし、グループ編成は同じテーマを選択した生徒同士とする。まとめ方はグループ内で統一しなくてもよいとし、個々にまとめさせる。

生徒の意欲や英語力に応じて取り組めるように、まとめ方のパターンを3つ提示する。

Aパターン：すでにある英文から使いたい文を選択してまとめる。暗唱して発表。

Bパターン：本文の形式をもとにポイント部分を埋めて完成させる穴埋め形式。

Cパターン：自由作文形式。

まとめた内容については、まずはグループ内で発表し合い、その後、グループから代表者を選出して全体への発表とする。

(3) 具体の評価規準

	具体の評価規準		C (努力を要する生徒への手立て)
	A (十分満足できる)	B (概ね満足できる)	
関心 意欲 態度	・積極的にレポート作成に取り組み、発表にも挙手をして挑戦する。	・活動に前向きな態度で取り組んでいる。	・レポート作成や発表に自信を持って取り組めるように支援する。
表現	・自分が伝えたいと思うことを自由に英文で表し、英語らしい音声で表情豊かに発表する。	・概ね英語らしい表現を用いて英作文を作成し、発音や抑揚に気をつけて発表する。	・自分の力に応じたまとめ方を選択できるように助言し、発音や抑揚よりも、大きな声で発表できることに重点を置いて練習に取り組ませる。
理解	・他の発表内容のポイントを正しく理解できる。	・発表の内容を概ね理解できる。	・発表されたレポートの内容を理解できるように聞き取るポイントを提示し、取り組ませる。
知識	・接触節、関係代名詞等の文法事項を理解し、レポートの表現の中で正しく活用している。	・接触節、関係代名詞等の文法事項を概ね理解し、それらをレポートの表現の中で活用している。	・後置修飾の語順に注意し、正しく内容を理解し、活用できるように支援する。

(4) 本時の展開

	学習内容	学習活動	指導上の留意事項	評価の観点（方法）
導入 10分	○ 既習事項の想起 1 学習課題の把握	・アタック 5（教科書 P 58～61 を音読、後置修飾を用いた文の口頭練習、用いる英文は家庭学習課題で用いた物を使用、レイチェル ・カーソンについての Q&A)	・音読は 2 分間、発音抑揚に注意させる。	【表現の能力】 ・後置修飾の文を正しく口頭で表現することができたか（観察・発言）
学習課題：「20 世紀の偉人」についてレポートにまとめよう。				
展開 37分	2 学習課題の追究 3 学習課題の解決	・レポート作成（資料を基にレポートにまとめる） ・発表練習（レポートの読み練習をする） ・発表①（グループ内で発表し合う、グループからの代表者を選出する） ・発表②（グループの代表者は全体に発表する）	・同じテーマを選んだ生徒でグループ編成 ・ABC の 3 つのパターンから個々の力に応じてまとめ方を選択させる。 ・発音、抑揚に気をつけて英語らしい表現になるように練習させる ・A パターンで取り組んだ生徒は暗唱で発表 ・他のグループの発表内容について、要点をメモさせる。	【関心・意欲・態度】 ・レポート作成に意欲的に取り組むことができたか（観察） 【表現の能力】 ・資料を基にレポートにまとめることができたか（巡視観察） 【関心・意欲・態度】 ・まとめたレポートを意欲的に発表しようとしているか（発言・観察） 【理解の能力】 ・他のグループの発表内容のポイントを聞き取り、メモすることができたか（挙手・指名発言）
終結 3分	4 まとめ	・評価活動（本時の学習を振り返る）	・生徒の取り組みを評価し、自信を持たせる ・次の学習への意欲づけを図る	